

2-2 地球環境にやさしい海上輸送

海上輸送は、海外との貿易だけを行っているわけではありません。我が国における国内貨物輸送のうち、トンキロベース⁴⁾で約4割は海上輸送が占めており、その貨物量は1年間に延べ21億トンにも達しています。

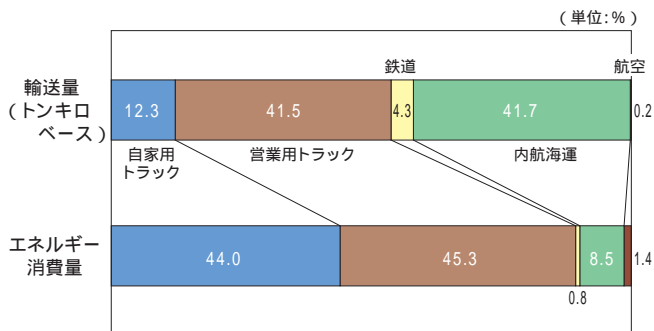
船舶による海上輸送は一度にたくさんの貨物を運ぶことができるため輸送コストが少なくて済むという特徴があります。また、他の輸送機関と比べてエネルギー効率も良く、地球温暖化の原因でもある二酸化炭素の排出量もトラックの約5分の1と、地球環境にやさしい輸送方法です。

県内の港湾では、全国各地の港湾と貨物のやりとりが行われています。

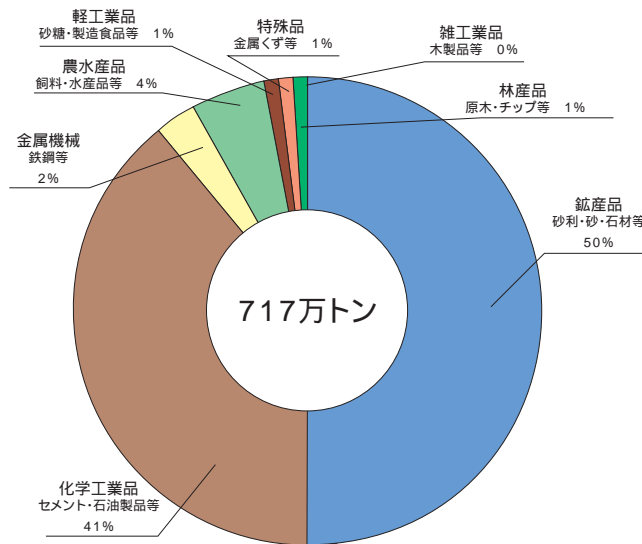
例えば、石油類は県内使用の約8割が山口県・岡山県などの港から、セメントについてはそのほとんどが福岡県・山口県などの港から、それぞれ船で県内の港に運ばれています。また、砂・砂利は、県内の港間でも多く運搬されています。特に砂・砂利の産地を有しない天草地域の諸港では、三角港や佐敷港を始めとする港からたくさんの砂・砂利を船で移入しています。

県内の54港湾で取り扱われる貨物量は、平成13年の実績で、輸出が約10万トン、輸入が約200万トン、移出約167万トン、移入約550万トンで合計927万トンになります。これは、10トン積み大型トラックで約93万台に相当する量が港湾を利用して運ばれていることになります。

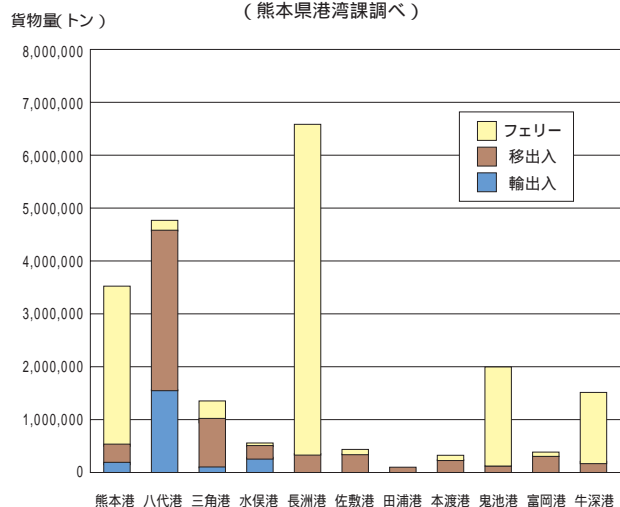
国内主要輸送機関の輸送量とエネルギー消費量の構成
(平成9年度)数字で見る物流より



県内の港湾における内買貨物
(2001年熊本県港湾課調べ)



平成13年港別貨物取扱量
(熊本県港湾課調べ)



4) トンキロベース：輸送量を表すための基準として、運搬した質量(トン)と運搬した距離(キロメートル)との積を単位とすること。